

「民家再生モデル住宅」「古材ギャラリー」

武部建設（北海道）

民家再生モデル住宅

1998年、当社から30kmほど離れた由仁町ゆにちょうにあった、1軒の古民家との出会いから民家再生の歩みが始まりました。当時、古民家に関して知識も経験もなかったのですが、立派な柱と梁を捨てて

しまうのはもったいないという想いで解体に挑んだのです。ベテラン大工の経験を頼りに継手仕口を壊さないようによつとの思いで解体し、会社敷地内で再生することにしました。

北海道の民家の多くは開拓期から昭和

初期ぐらいまでに建てられ、今でも残っているのはとても希少です。元の状態に戻す「復元」ではなく、今後住み継いでいくための「再生」とは何かを考えました。

多くの古民家が失われてしまった1番

理由は「寒さ」でしょう。加えて、「暗い」「不便」。この「寒い・暗い・不便」の三要素をどう現代の技術をもって解決するか。民家の良さを損なわずに、断熱・気密・換気・暖房といった性能をどうバランスさせるかが再生の鍵となりました。断熱気密は当時の最先端の技術を取り入れ、暖房機器は床下に収め、室内には見えな

い仕様に。さらに、換気経路を計画的に考え、第三種換気を採用するなどパッシブデザインによって性能を担保することとしました。

初期ぐらゐに建てられ、今でも残っているのはとても希少です。元の状態に戻す「復元」ではなく、今後住み継いでいくための「再生」とは何かを考えました。

多くの古民家が失われてしまった1番の理由は「寒さ」でしょう。加えて、「暗い」「不便」。この「寒い・暗い・不便」の三要素をどう現代の技術をもって解決するか。民家の良さを損なわずに、断熱・気密・換気・暖房といった性能をどうバランスさせるかが再生の鍵となりました。断熱気密は当時の最先端の技術を取り入れ、暖房機器は床下に収め、室内には見えな



内観



外観



土間と柱の内



縁側



床の間

古材ギャラリー

敷地内には、古材をストックしている倉庫もあります。新築を希望されるお客さまをご案内し、大黒柱に古材を採用していただき、古材を構造材として使ったレストランも手がけてきました。完全な再生ではなく、意匠的に古材を使うといった取り組みです。今後、もこういった活動を続け、古民家や古材に興味のある方が増え、大切な資源を次世代につなげていきたいと思っています。



「民家再生モデル住宅」です。

再生してからすでに20年以上の月日が経っていますが、現しの柱と梁で構成された空間は、何年経っても色あせることなく、どこか懐かしく落ち着いた気持ちにさせてくれます。当社の謳う「モダンクラシック」がそこにあります。

北海道では、その成り立ちからさまざまに地域由来の民家がありました。入植者は、開墾時に伐倒した木を保管し、いつか故郷の様式で故郷の大工を呼んで家

（武部建設・登録事業者 文・井筒祐季）